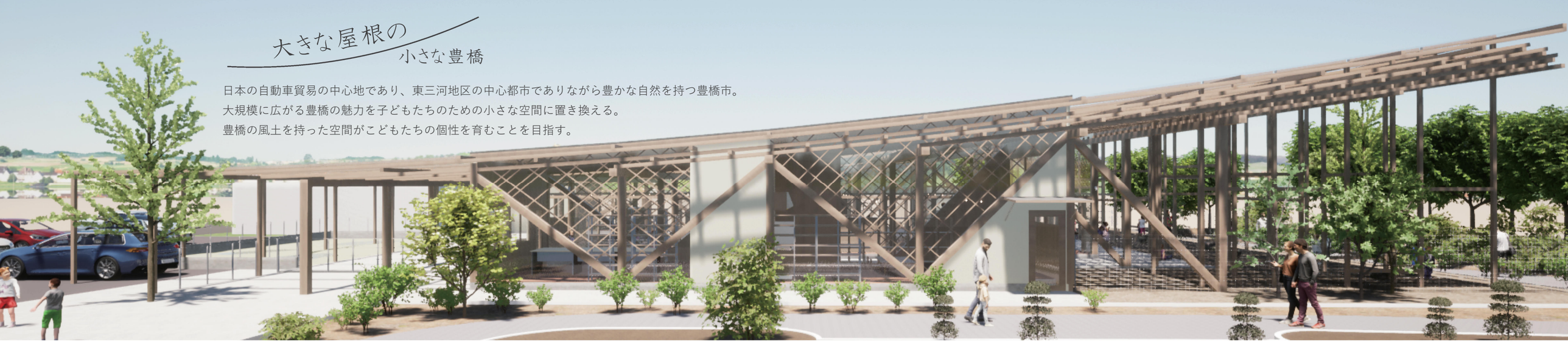
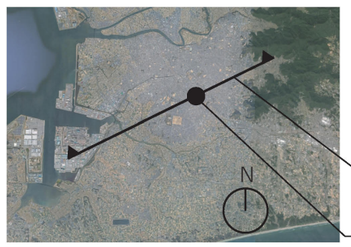
大きな屋根の小さな豊橋

日本の自動車貿易の中心地であり、東三河地区の中心都市でありながら豊かな自然を持つ豊橋市。
大規模に広がる豊橋の魅力を子どもたちのための小さな空間に置き換える。
豊橋の風土を持った空間がこどもたちの個性を育むことを目指す。



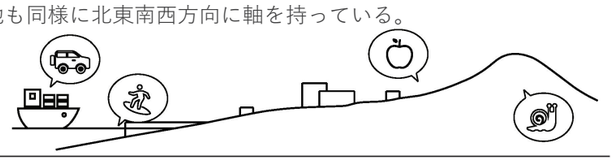
1. 敷地を中心に豊橋の断面を考える



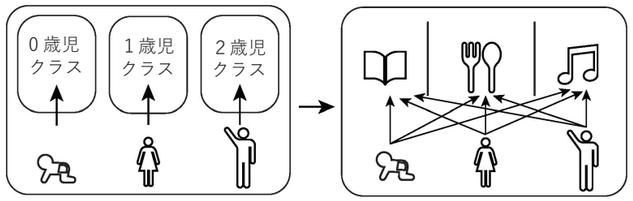
豊橋の北東は石巻山を中心とする山々がそびえ、南西は自動車貿易の拠点となる港を中心に工業地帯となっている。このように北東・南西軸で異なる性質を持っている。また、計画敷地も同様に北東南西方向に軸を持っている。

Site

Section of Toyohashi



2. 場の持つ性質をもとに行われる活動

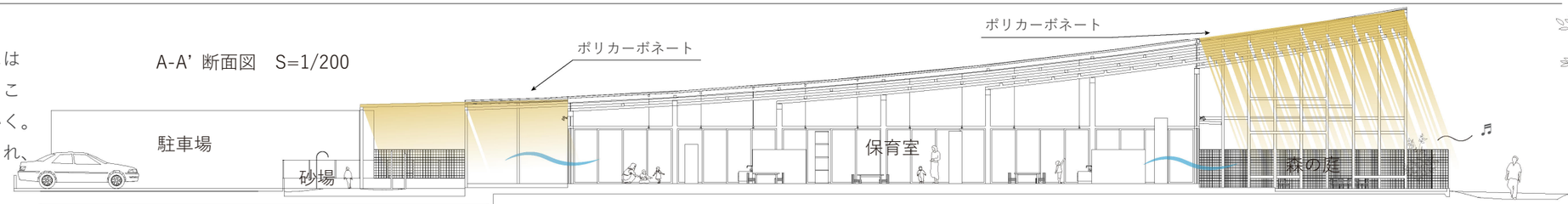


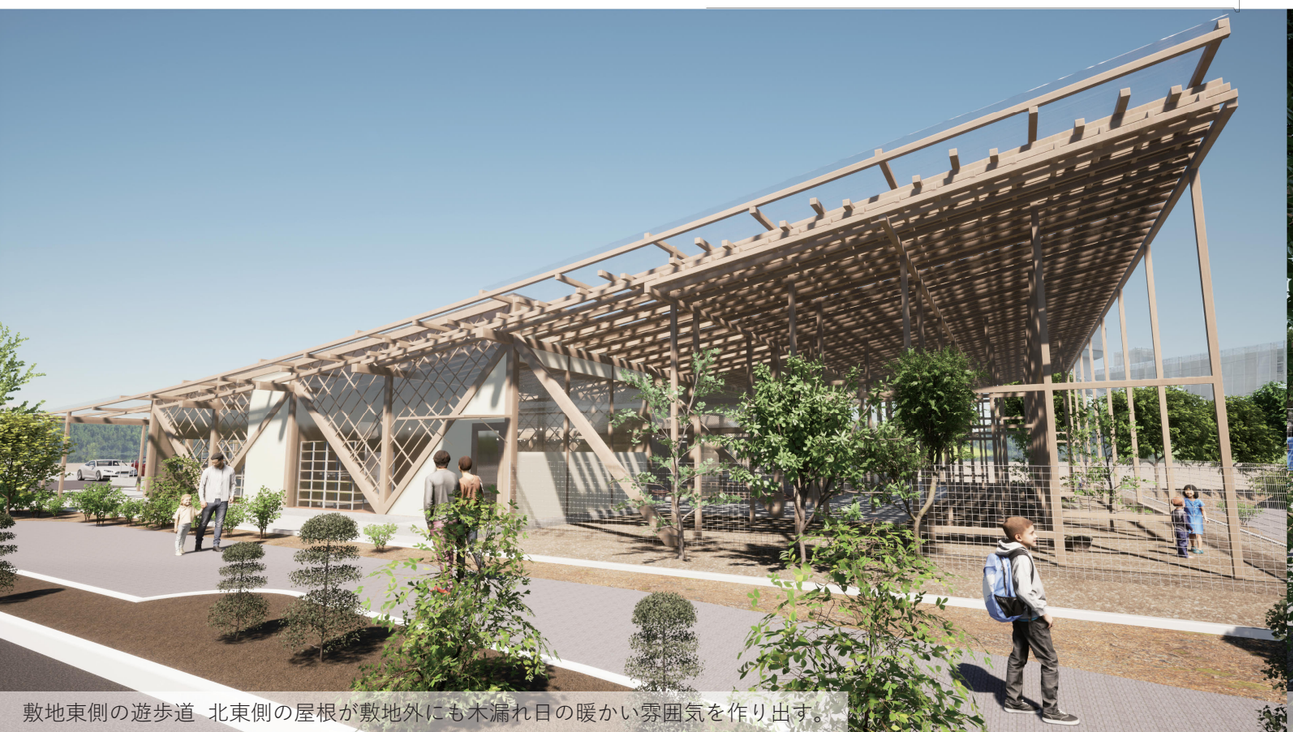
0～2歳児の発達の速さは子どもによってそれぞれである。そこで、土地によって異なる活動を持つ豊橋の風土を参考に、学年ごとに壁で仕切られた保育室を見直し、大きな一つの保育室内を移動しながら活動するように計画する。
そうすることで園児たちは移動の中で自分の心地の良い環境や活動を見つけ、また、限定されたコミュニティを脱して多様なかかわりを持つことが出来る。

3. 断面計画

保育室を敷地中心に配置し、南西側には砂場と駐車場、北東側には公園と接続する庭を配置する。これらを密度差を持つ屋根で覆うことで南西側には多くの光が差し込み、北東側へと光は絞られていく。この操作によって海から山へと広がる豊橋を圧縮した空間が生まれ、子どもたちにさまざまな発見と興味をもたらしていく。

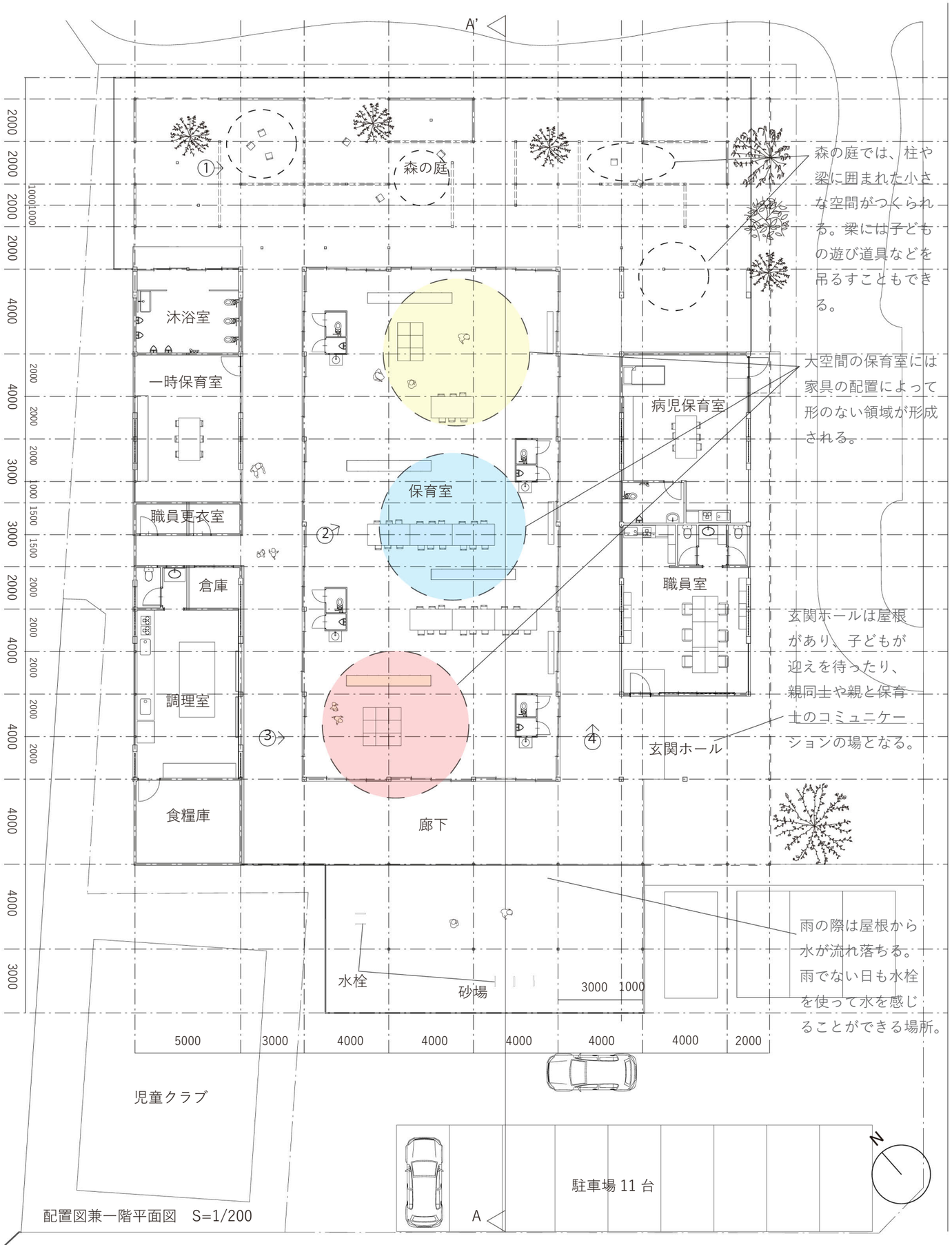
A-A’ 断面図　S=1/200





敷地東側の遊歩道　北東側の屋根が敷地外にも木漏れ日の暖かい雰囲気を作り出す。

敷地東側の遊歩道　　北東側の屋根が遊歩道にも木漏れ日の暖かい雰囲気を共有する。

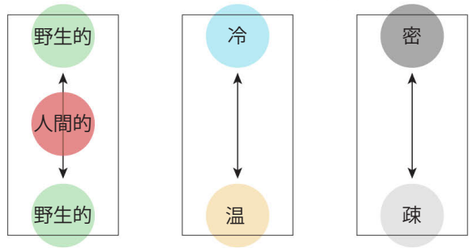


配置図兼一階平面図　S=1/200

4. 平面計画

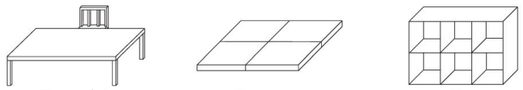
4.1　保育室に発生する場

森の庭と砂場に囲まれ、異なる光を作り出す大屋根の下に配置された一つの大きな保育室。大空間でありながら性質の異なる南北によって保育室内にはさまざまなグラデーションを持つ場が発生する。



4.2　領域を作り出す３つの家具

大きな保育室を有効的に使用するために３つの移動可能な家具にそれぞれの役割を持たせる。大空間である保育室に小さな領域が生まれ、移動式で壁のない小さな教室が現れる。



テーブル
学習（絵、本等）空間や食事の場を形成する。

畳マット
昼寝のための場所やまだ歩くことができない園児のための場を形成する。

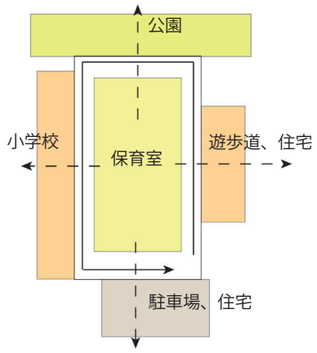
収納
保育室内の領域を緩やかに仕切る。

4.3　囲まれなつつも、開放的な空間

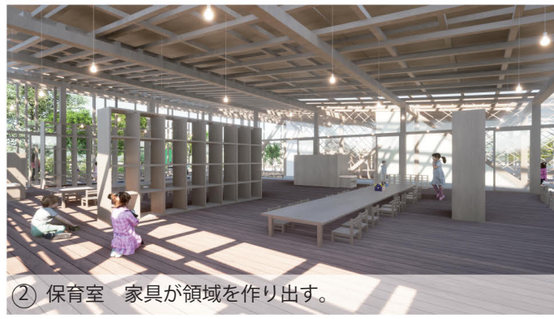
保育室は部屋や庭などに囲まれつつも、視線は遮られることがないように計画した。

周りは一周廊下に囲まれており、保育室のどの方向からも出ることができる。

子どもたちは保育室から目に入る虫や鳥、植物や雨などに近寄ることができ、好奇心を遮られないような空間とした。

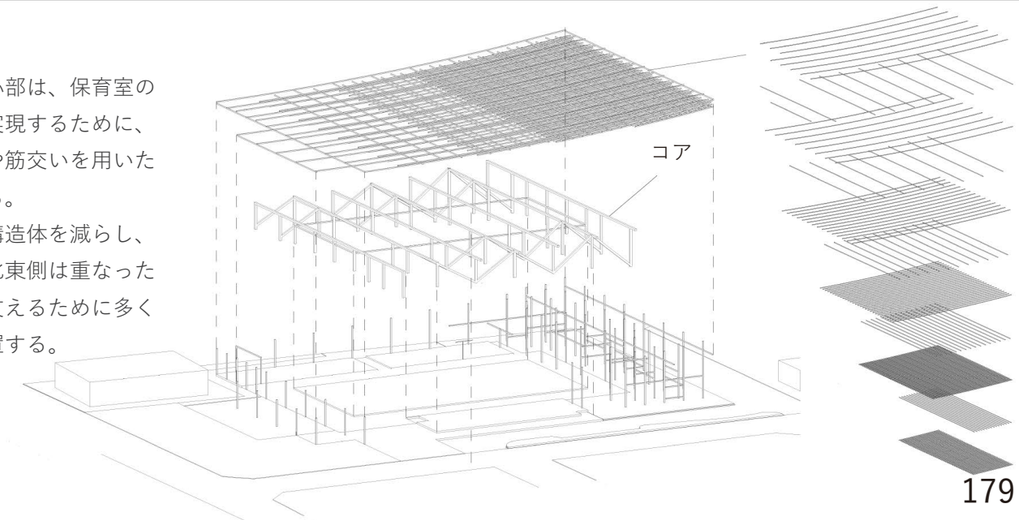


① 森の庭　石や椅子、本物の木も入り混じる。


② 保育室　家具が領域を作り出す。

③ 保育室南側　多くの光が差し込む。

④ 廊下　子どもたちが走り回る明るい空間。

5. 構造

敷地の中心部は、保育室の大空間を実現するために、太い部材や筋交いを用いたコアとする。
南西側は構造体を減らし、反対に、北東側は重なった梁の層を支えるために多くの柱を配置する。